

# 志摩ギターを楽しむ会 第11回コンサート

2012/4/14(土)19:00~ 於:阿児列ナ

## プログラム

### 1 小林恵子

マリーア (F. Tárrega)  
エチュード (F. Tárrega)  
大きな古時計 (H. C. Work)

### 2 井本一郎

オリジナルの「ギターソロのためARIA」  
「ジュピター」 (Holst)



……休憩……

### 3. 広垣 進 & 小林恵子

「月光」 F. Sor ~ D. Fortea 編  
「魔笛の主題によるやさしい変奏曲」 広垣 進

### 4. 広垣 進

ロシー伯爵の墓のために (S.L. Weiss)  
無伴奏チェロ組曲第3番 (J.S. Bach)  
花、荒城の月 (瀧廉太郎~広垣編)  
シャコンヌ ハ長調 ~カルリの和声進行に基づく~ (広垣 進 作曲)

今回は吉川さんは多忙のためお休みにになります。広垣さんと小林さんのデュオが実現しました。ソロでは今まで数々の演奏を披露して下さっているお二人ですが、どのようなハーモニーを奏でてくれるか楽しみです。

広垣さんの無伴奏チェロ組曲第3番(ブルグ)が有名ですね。)も楽しみです。いつも重複しないように選曲にはいろいろと配慮してもらっています。

Dr. Ichiro(井本一郎先生)のブログ"ichiroの音楽談義"には目の不調が訴えられています。様々なツールがIT化され目を酷使する今日、また花粉や黄砂の影響も否めません。(本当は加齢が主因かも知れませんが・・・失礼!) 毎回高速を使って会場まで駆けつけてもらっていますが、どうか安全運転で!

☆タレガについては今までに紹介してきましたが、レコードやCDを購入するとアルバムの中には必ずタレガの作品が含まれていました。また、ギターを始めるときに使った教則本にもタレガの作品は載っていましたね。この会でも《アルハンブラの思い出 Recuerdos de la Alhambra》《アラブ風奇想曲 Capricho Arabe》など数多くの佳曲を紹介してきました。今回は小林さんに「マリーア」を演奏してもらいます。

タレガは、有名な旋律の数多い作曲家でもあり、その作品はしばしば広告放送や映画音楽などにも利用されています。上記の作品のほかに、《涙 Lagrima》や《夢》、それぞれ女性名がつけられている《2つのマズルカ》、打楽器的な効果も飛び出す《グラン・ホタ》など。タレガはヴィルトゥオーソではあったが、作曲家として心酔したショパンに似て、作品においては詩的情緒と超絶技巧の融和を何よりも追究しました。

☆『大きな古時計』（英: My Grandfather's Clock）は、アメリカ合衆国のポピュラー・ソング。作詞・作曲はヘンリー・クレイ・ワークで、1876年に発表され、当時アメリカで楽譜が100万部以上売れました。今年6月には市内の小学校から招かれ、広垣、小林、北村でこの曲を始め数曲披露しギターの魅力を子どもたちに紹介してきます。



☆「ジュピター」グスターヴ・ホルスト（Gustav Holst/Gustavus Theodore von Holst, 1874年9月21日 - 1934年5月25日）は、イギリスを代表する作曲家の一人です。最も知られた作品は、管弦楽のために書かれた『惑星』（The Planets）です。イングランド各地の民謡や東洋的な題材を用いた作品、吹奏楽曲でも知られています。

『惑星』 作品32（The Planets, Op.32） - 7つの曲から成る、大編成の管弦楽のために書かれた組曲で、最後の「海王星」では舞台裏に配置された女声合唱が使われています。オーケストラの演奏では宇宙的な広がりや遠近感が感じられる曲ですね。今回はその中のジュピター（木星：近年ポピュラー化しましたね。）をギターで聴かせていただきます。

☆無伴奏チェロ組曲第3番八長調 BWV1009 J.S.Bach  
前奏曲

4分の3拍子。主音から舞い降りるように順次下降する旋律がスケール大きく展開されます。後半の波のような分散和音の連続から重音の連続に至る

過程は圧倒的な高揚感があります。

アルマンド：二部形式、4分の4拍子。他のアルマンドと比べて律動的。

クワラント：二部形式、4分の3拍子。勢いよく急下降する主題が多彩に展開されます。

サラバンド：二部形式、4分の3拍子。重音で問いかけるような音型が奏されます。

ブーレ I/II (Bourree I/II)：三部形式、2分の2拍子。高音部と低音部が会話するような第1ブーレは親しみやすく、よく知られるもの。中間の第2ブーレはハ短調。演奏の好みは別として、A. V. B. の演奏を耳にした方もおられると思います。

ジグ：二部形式、8分の3拍子。重音を伴って上昇する音型が華麗に展開されます。

作曲年代は明らかでないが、ケーテン時代（1717年-1723年：この時代有名な組曲が多数作曲されていますね。）に作曲されたらしい。その後、単純な練習曲として忘れられていますが、パブロ・カザルスによって再発掘されて以降、チェリストの聖典的な作品と見なされるようになりました。全6曲のうち後半の作品にはチェロで演奏するには難しいものがあります。6本の弦のあるギターの方が技術的には容易かも知れません。ちなみに第1番の組曲プレリードはDr. Ichiroの十八番でもあります。

☆シャコンヌ・パッサカリアはこの会でもしばしば取り上げてきました。過去、第6回にはパルティータ第2番二短調 BWV1004 Bach、第9回にはWeissのシャコンヌをそれぞれ聴かせてもらっています。

今回少しその起源について触れておきます。チャコーナ chacona は16世紀末に、スペイン文化圏で発生した民衆音楽に起源を持つと言われていいます。はじめは快活な3拍子の舞曲であり、多くの場合性的な含意を伴う踊り、風刺的な歌詞を持っていたようです。そのために、しばしば公の場でチャコーナを演奏したり踊ったりすることが禁じられていましたが、爆発的に人気を博して、イベリア半島とイタリア半島であつという間に広まりました。いわゆるシャコンヌ (仏 chaconne) は、特定の低音および和声進行を繰り返すオスティナート・バスを用いた曲の呼称のひとつで17世紀までのシャコンヌの多くは快活な3拍子の舞曲でした。上述J.S.Bachの無伴奏パルティータ第2番二短調 BWV1004は特に有名ですね。20世紀になると、パッサカリア、あるいはシャコンヌと明示的に名前の付けられた作品が多く書かれるようになりました。

コンサート開催にあたり毎回70名前後の方々に案内状を差し上げています。結果、開場に来て下さる方は毎回30名弱と言ったところです。あと10名ほど来場者が増えれば運営もスムーズに行えるといつも思っています。

そんな中、Y氏からM眼科前の調剤薬局に手作りのチラシを貼付させていただいたことや問い合わせ先や会員の横の繋がり等について提言を頂きました。この会は会員の皆様による口コミを期待しつつ毎回案内をさせていただいていますが微減・微増に一喜一憂を繰り返しています。

また、その日どうしても参加できないと言う方からも「去年はギターがマイ・ブレイクで特にギターで聴くバッハにはまりました。」というお返事も頂いています。

「志摩でささやかながらクラシックギターを中心とした音楽活動を続けたいね。」という思いで続けていますが、まだまだ志摩市全体に浸透しているとはいえません。PR・ご吹聴とも皆様には益々ご支持ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 2011年度 志摩ギターを楽しむ会 会計決算

### 収入の部(A)

No	日	項目	金額	摘要
1	3.31	繰越金	5,000	
2	5.14	会費	19,000	1,000×19
3	11.6	会費	2,500	500×5
	12.25	雑収入	1,000	寄付金(前田様より)
合計				27,500

### 支出の部(B)

	費目	金額	摘要
1	通信費4/18	4,800	切手代80×60
2	会場費5/14	2,450	ア-ナ ミーティングルーム
3	通信費11/4	4,800	切手代80×60
4	会場費11/6	2,100	ア-ナ ミーティングルーム
5	交通費、弦代	13,000	広垣:3,500円×2=7,000 吉川:2,000円×2=4,000 小林:2,000円×1=2,000
6	事務局費	350	紙代
合計		27,500	

収入の部(A)27,500円－支出の部(B)27,500円＝0円